

超高分解能OCTが 新たな時代を拓く！

2016年11月4日(金) 7:30～8:30 第7会場 (国立京都国際会館 1F RoomD)

座長

石橋 達朗 先生

九州大学 病院長・副学長



OCTの進歩は著しく、生体組織を2次元および3次元で解析できるようになった。最近では、特定深さの領域を正面から観察した像を表示するen face機能や血管のみを抽出するOCT angiographyの技術が開発されている。眼科領域においても研究及び臨床現場において網膜の構造の解析にルーティンに使用されるようになり、診断や病態の解釈に多大な貢献をし、学会発表ではOCTを用いた多くの報告がされるようになった。現在、深度方向5～8 μmの分解能のOCTが一般的であるが、近年の光源や信号解析技術の進歩によって、より高分解能OCTが開発されている。このOCTで得られる、より微細で鮮明な画像は、研究及び臨床現場でどのように力を発揮するのであろうか。お二人の先生方に最近の知見をお話頂く。

講演
1

超高分解能OCTで
見えてくるもの

飯田 知弘 先生

東京女子医科大学 教授



講演
2

超高分解能OCTで、
網膜がここまで見える！

近藤 峰生 先生

三重大学 教授

